

# 徒然なるままに…32

—校内研⑤を振り返って…教材の構造と単元展開—

平成27年6月23日  
白鳥小学校 研修部

はじめに

早いもので、6月も下旬を迎えました。今年の梅雨は、あまり気温が上がらないものの、うっとおしさを感じませんか。それに、ここぞというときに雨が降りますし。困った季節です。各地では、大雨による水害や土砂災害が起こっているのです、お気楽なこととは言えませんが。先生方の方には、被害などありませんでしょうか。

さて、今回は、校内全体研修会⑤で提案された単元から一考したことについて振り返りたいと思います。(今回は、写真を取り忘れてしまい、文字ばかりになりますが、ご容赦ください。)

## 1 3学年「わたしたちのくらしとものを作る仕事」

3学年は、地域のものを作る仕事として、大規模で大量生産の「三島食品」と、小規模で少量・限定生産の「蓬莱鶴」を取り上げ、これらを比較することを通して、ものづくりへのこだわりと地域や私たちの生活に根差していることについて考える単元を提案されました。この単元を考えるキーワードとして、次の二つが挙げられます。

一つ目は、「比較」です。この点は、昨年度も研修会で評価をいただいた点です。「三島食品」だけだと、製品を大量に作る効率性しか見えないし、「蓬莱鶴」だけだと、原料や製法へのこだわりしか見えません。これら二つを取り上げ、比較することによって、方針の違いから生産方法が変わることや生産の仕方は違っても、それぞれにものづくりへのこだわりを持っていることなど、地域のものづくりについて、明確に、幅広くとらえることができると考えられます。

「比較」は、低学年でも十分使える有効な認識の方法です。同じようなものから、(本質的な)違いを見出したり(=対比)、まったく違うと思われるものから、共通し、(本質的に)繰り返されていることを見出したり(=類比)することができるのです。

二つ目は、「地域に根差す」です。ここでは、「位置付け」と「つながり」の二つの意味があると思います。

「位置付け」とは、製品が地域でどのように扱われ、評価されているかということです。例えば、蓬莱鶴が扱われている店を丹念に調べ、その範囲に限定されるわけを考えたり、店で扱うわけを聞き取ったりすることを通して、白島が地域を挙げて大切にしていることに気付くことができると考えられます。

「つながり」とは、製品が地域にどのような影響を与え、どのような意味を持っているのかということです。例えば、蓬莱鶴で限定販売されている「白島ろまん」が商店会の事業とのタイアップから生まれ、地域で限定販売されていることから、酒造りが街づくりにつながっていることに気付くことができると考えられます。

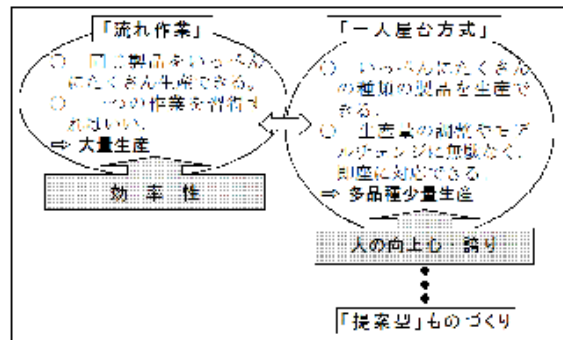
研修会で、この部分は、酒造りへのこだわりの学習の中に取り入れるのではないかと

う指摘がありました。「白島ろまん」を巡る取組を、「蓬莱鶴側」の視点から見ると、原料にこだわった白島限定の酒を商店会を挙げて販売していると、こだわりの一つとしてとらえることができるでしょう。これを、「地域や商店会側」から見ると、地域の自慢の酒づくりに、地域と商店会がタイアップして「白島ろまん」をつくることによって、白島のよさをアピールし、街を活性化させようとしているととらえることができるでしょう。こうなると、ものづくりを地域ぐるみの街づくり、活性化としてとらえ直す学習として位置付けることもできると思います。

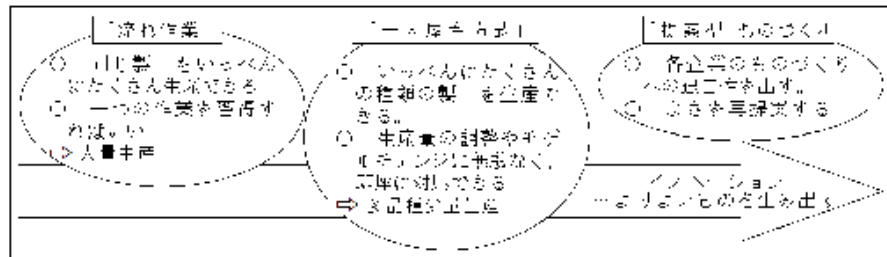
2 5学年「最新技術の中で生きる人の力」（わたしたちの生活と工業生産）

5学年は、「ニーズ」を切り口に、「流れ作業」による大量生産から、「一人屋台方式」による多品種少量生産に転換していること、ひいては、生産者側から新たなニーズを生み出す「提案型」ものづくりへと動いていることから、今後の日本の工業生産を展望する単元を提案しました。今回指摘があったのは、単元全体を貫く内容を整理することでした。つまり、「流れ作業」から「一人屋台方式」への転換、そして、「提案型」ものづくりへと、一貫して流れている「イノベーション」を、柱として明確にした単元展開をすることでした。

これは、教材・内容の構造化の



[資料1:「最新技術の中で生きる人の力」の内容構造①]



[資料2:「最新技術の中で生きる人の力」の内容構造②]

不明確さによるものだと考えられます。学年では、「流れ作業」と「一人屋台方式」を、[資料1]のように単に対比の構造とし、効率性や向上心・誇りを未整理のまま「人の力」ととらえていました。しかし、これでは、「一人屋台方式」で見えてきた日本の工業生産の有り様から、「提案型」ものづくりを見ていくことができません。そこで、[資料2]のように、社会が変化し、生産方式が転換しようとも、よりよいものをどんどん生み出そうとする力(=イノベーション)が生かされているというように、日本の工業生産をとらえる必要があると考えることが必要なのです。

教材・内容の構造化とは、その教材から社会の有り様を見出し、内容として意味付け、価値付けをすることです。構造化の必要性は、これまで述べさせていただきました。今回の例でも分かるように、単元の流れやとらえ方にかかわる重要な観点です。ぜひ、試みてください。

3 6学年「新しい日本、平和な日本へーウチらのヒロシマ ワシらの日本ー」

6学年は、「広島復興博覧会」と原子力の「平和利用」の動きから見た広島の復興につ

いて考える単元を提案されました。

「広島復興博覧会」は、三つの視点から考えることができるでしょう。

一つ目は、為政者側です。日本の政府には、日本の復興と経済的な発展のためには、原子力利用の推進が必要でした。そこで、被爆地広島で、原子力の「平和利用」を発信し、国民や世界の理解を得ようとしたのです。

二つ目は、アメリカです。冷戦とエネルギー問題を背景に、原子力の「平和利用」というテーマの下、アメリカも原子力利用を推進していました。やはり、そこでも、被爆地広島からの原子力の「平和利用」の発信を望んでいました。

三つ目は、広島市民です。市民には、復興への喜びや「原子力」による発展を夢見て、開催に湧き上がる賛同した人たちと、被爆地・被爆者として、「平和利用」に賛同できない人たちがいたそうです。広島市民は、様々な立場や思い、願いが交錯し、苦しい思いをした人も多くいました。そんな状況や社会的な背景に翻弄されながら、広島の人々は生きたのでしょ

うでしょう。このように、「広島復興博覧会」は、いろいろな側面や問題性を持っていると考えられます。とすると、どの切り口から迫り、どんな内容をどう考えさせるのか、木村先生の言葉で言うと、この教材を通して、どんな社会のあり様を見せるのかが重要になってきます。29号でもお話したように、社会的な事象や問題を子どもに投げるだけでは、子どもは、新たなことを知ることなく、気付くことなく、考えを持つことになってしまうからです。

ここで考えられるねらい・内容として、一つ目は、「エネルギー」としての原子力を切り口に、エネルギー利用の変遷と経済発展について問い直す学習が考えられます。二つ目は、上で述べたような戦後日本の外交や政治的な背景から、「広島復興博覧会」の意味を問う学習が考えられます。三つ目は、社会的背景から、「広島復興博覧会」を巡り様々な立場や思い・願いが交錯した状況下においても、何とか平和都市づくりを進めようとした広島の人々の生きざまに迫る学習が考えられます。人物としては、被爆者への援助を訴え反対した森瀧市郎さんや広島平和記念資料館のつくった長岡省吾さんなどが挙げられるでしょう。

### 3 おわりにー「協働」で授業づくりを！

今回は、何人かの先生のリクエストもあり、校内研で提案された単元に併せて、「いかず」についてもお話ししようと思っていましたが、ここで力尽きてしまいましたので、次号に残したいと思います。申し訳ありません。できれば、今週末にはと思っていますので、よかったら、参考にしてください。

最後に、先般、木村先生がみんなで考えることが大切であると話をされました。先日の教育センターでの研修会でも、「協働」の校内研を推進する話を伺いました。(これについては、次々号にてご報告します。)

校内研において、昨年度は、随分意見交流が活発になってきたと思っていたのですが、今年度は、先生方の発言・コメントが少ないことを残念に思っています。確かに、今年度は、実際の授業を見た上での協議ではなく、昨年ある程度実践した授業を再構成した提案についての協議となるために、意見・コメントを出しにくい状況であることは否め

《ません。しかし、全職員で全国大会に臨むというスタンスに立ち、ともに授業づくりを  
《進めていくことが必要なのではないのでしょうか。様々な切り口から意見・コメントを出  
《し合うことによって、授業者の授業がよりよくなるばかりでなく、ご自分の授業分析す  
《る力と学校としての授業づくりの力が高まると思います。そして、その恩恵を受けるの  
《は、他のだれでもない子どもなのです。》